

町ぐるみ
 和木学園
- WAKIGAKUEN -

和木学園、
開園！



和木学園 とは？

...Waki Gakuen...

まち
「地域」への入り口

和木学園

平成 29 年 3 月、和木学園が開園しました。「和木学園ってなに？」
という方のために、この学園のことをご紹介します。

取組内容

これまでコミュニティセンターや保健相談センター、文化会館などで開催されてきた講座に加えて、「和木学園講座」を新たに開設します。そのほかにも、学園の目標達成をめざし、事業・取組を進めていきます。

和木学園講座

和木学園講座の特徴は、近所のおばあちゃんやお店の店主、中学生など、和木町に暮らす身近な“あの人”が先生になったり、和木町の伝統料理や祭りが講座のテーマになったりと、和木の魅力的なヒト・モノ・コトを通じて学び合い、住民同士のつながりが生まれることです。

和木学園の目的

和木学園は、住民が互いに学び合い、学んだ成果を地域に還元する「生涯学習」を、まち全体に広げることが目的に設立されました。

学園の目標

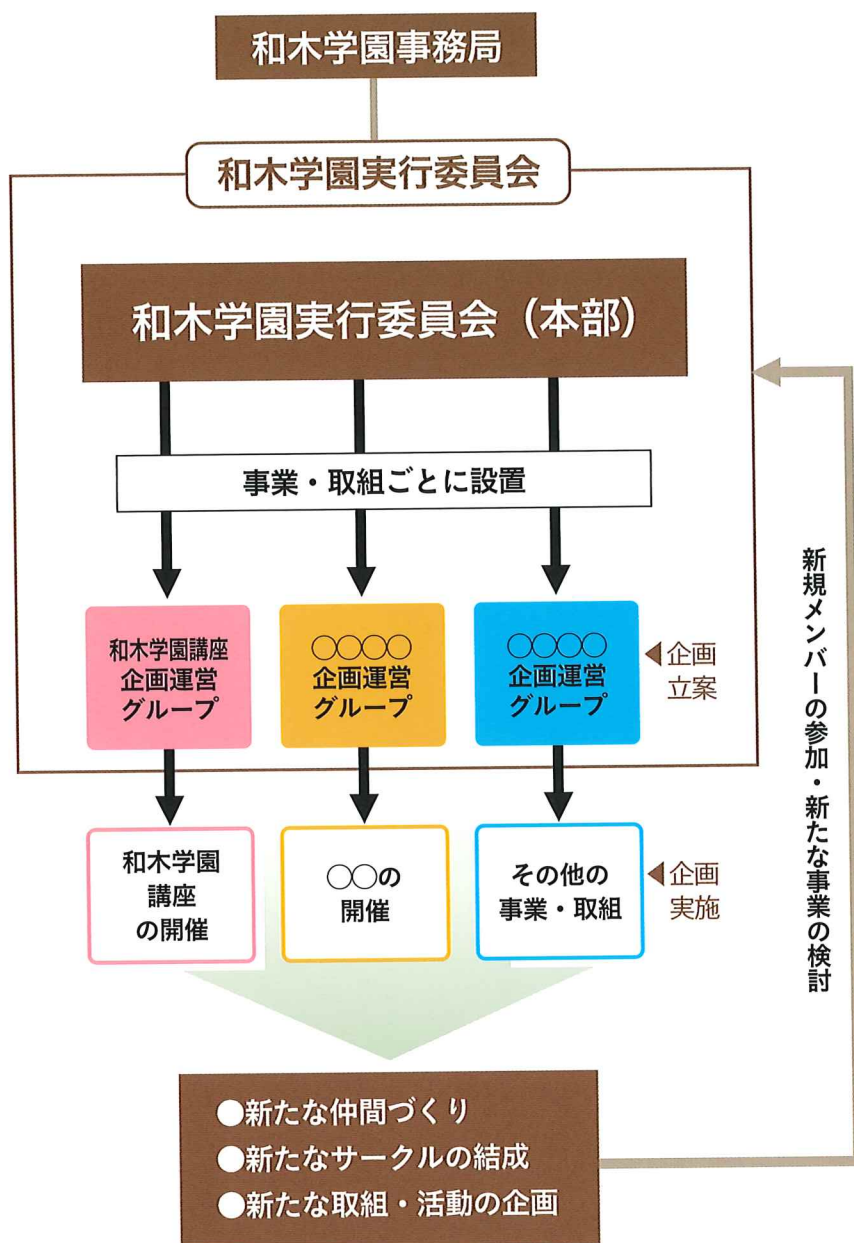
和木学園は、上の目的を達成するために、3つの目標を掲げ、事業・取組を行います。

- STEP 1** 和木のヒト・モノ・コトにふれる・知る機会を提供する
- STEP 2** 「生徒」同士や「先生と生徒」のつながりを創出する
- STEP 3** 学びやつながりを通じて、地域でのアクションにつなげる

そのほかには…

和木町の生涯学習講座を一括して発信する情報サイトの構築や、まち歩きをしながら「現場」を視察し、課題の発見から解決策の検討、実践までを行う「和木学園の課外活動」など、まだまだ構想段階ですが、その他の取組も検討中です。みなさんのアイデアを募集しています。

■和木学園を運営する仕組み



和木学園の運営の仕組みとして、ある講座への参加者が、次の講座には企画・運営メンバーとして参画するなど、多様な関わり方ができる仕組みとします。

「みんなが生徒」 「みんなが先生」 が キーワード

和木学園が大切にしているキーワードは、「みんなが生徒 みんなが先生」です。となりの家のおじさんも、百歳を越したおばあちゃんも、その生きる姿を通して教育を行っています。庭に生えている草も道にころがる石も、豊かな自然や化学工場も、みんな教材であり、私たちの

師であると考えます。和木学園の展開する講座やイベントに對しても、参加者であったり、はたまた企画者や先生として関わったりと、その時々により多様な立場で関わられる、ゆるやかな参加ができる学園、みんなが互いに学び合える学園をめざします。



『学帽』は「まなび」を表現しており、その中央には和木町の町章がほどこされています。基調色となっている緑色は、和木町総合計画で定めている将来都市像『緑の風薫る文化のまち和木町』をイメージしました。

和木学園 ロゴマーク

W a k i G a k u e n - l o g o

座談会を
開催しました!

和木学園へようこそ



～和木学園開園への想い～

和木学園の開園に関わる4人が、
「和木町 × 生涯学習」をテーマに
語り合いました。



岡田さん
和木学園実行委員会 会長
地域協育ネット コーディネーター



重岡教育長
和木町教育委員会 教育長



崎本さん
地域協育ネット コーディネーター



光貞さん
和木町教育委員会 派遣社会教育主事
(和木学園実行委員会事務局)

〈生涯学習を通じて、

町全体の「つながり」を深めたい〉

— 生涯学習という視点で見ると、和木町はどんなまちですか? —

【岡田さん】和木町は人口6,500人

くらいのこじんまりとしたまち。やろ

うと思えば何でもできます。企業城下

町で子育て支援も充実し、若い世代、

子どもも多く住みよいまちです。一方

で、若い世代と高齢者、転入してきた

人と古くからいる人の間で、文化や伝

統が「つながっていない」と感じます。一

つ例をあげると、昔あったような親子

での遊びも、最近子育てをしているお

父さん・お母さんの中には遊び方を知

らない人も多いのではないですか。

【教育長】岡田さんがおっしゃる通り、



和木町は人口が少なく、おたがいの顔
が見えるまちです。人との交流や山や
清流などの自然環境、歴史にもふれる
ことができます。化学工場もあり最先
端の科学にもふれることができる。町
のいたるところに「学び」があふれてい
ます。しかし、これまではそこに十分目
を向けられていなかったように思いま
す。町ぐるみで取り組む生涯学習のあ
り方を、もう一度見直す必要があるの
ではないかと感じています。



【崎本さん】私は、和木町が「こみを捨てないでください」という看板のないまちにしたいという夢があります。町を愛する気持ちがあれば、看板がなくてもきっとこみを捨てないと思います。生涯学習を通じて、町のことを知り、住民同士がつながり、町を愛する心が育まれることで、看板がなくてもこみが落ちていないまちになったらいいなと思います。

【光貞さん】生涯学習がさらに広がることで、世代間のつながり、和木町の文化・歴史や最先端の技術、学校とのつながりが深まるのではと期待しています。そして、生涯学習を広げていくためには、自分たちはこのまちをどうしたいのか、自分たちがまちを動かすんだという当事者意識を持つことが大切だと思います。

【岡田さん】人のツテ、口コミで「先生」が見つかることも多いですね。素晴らしい人材と出会うことが多いです。

【崎本さん】ただ、遠慮して引き受けてくださらない方も多いですね。

【岡田さん】二度やってみると、みなさん



【教育長】当事者意識は、今後どのまちでも大切になってくるでしょうね。

＜和木学園で、和木の将来を担う人づくりを＞

ー お二人は、学校と地域をつなげる「地域協育ネット」にも関わられています。ー

【崎本さん】学校の依頼で、授業に協力してもらった「先生」を地域の方の中から探すのですが、素晴らしい技術や素敵な人柄、和木を思う熱い気持ちを多くの人と出会い、「和木町にはたくさん素晴らしい方がいるなあ」と驚くことが多いです。



楽しさがわかるんですけどね。和木学園の講座も同じで、やはり参加のきっかけづくりが大切です。広報がやはり重要で、チラシだけで呼びかけてもなかなか参加にはつながりません。直接声をかけて誘ったり、グループや団体を通じて参加を呼びかけたり、チラシやポスターの作り方にも工夫が大切だと思います。

【崎本さん】和木学園では、四季を通じて講座ができたらいいですね。たとえば、お正月用のしめなわをつくるために、田植えをして稲を刈り、そこで出た藁でしめなわをつくる。長期的に関わることで、モノを作る苦労、喜びを感じられる講座、完成に至るまでの過程やその過程で生まれる出会いを楽しめる講座を企画してみたいですね。

【光貞さん】中学校の教員をしている

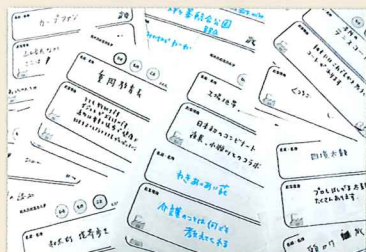


自分自身の経験からいうと、自分が手がけた子どもの変化が実感できるととてもやる気が出ます。子どもが変わることで、保護者や地域の方も変わってきます。和木学園でも、自分に関わる目の前の一人一人、一つのこと、一所懸命に取り組んでいきたいと考えています。

【教育長】「みんなが生徒 みんなが先生」を合い言葉にしている和木学園で、心豊かなコミュニティづくりや郷土を愛する人づくり、和木の将来を担う人づくりができるよう、各種の事業に積極的に取り組む所存です。

Step 1

和木町の 「宝」を探す。



まずは、和木町にはどんな「宝」があるのかを「ひと」「もの」「こと」に分けて考えるところからスタート。歴史通やアーティストといった「ひと」、郷土料理や施設といった「もの」、行事や風景といった「こと」など、数え上げるとキリがないほど、たくさんの「宝」があることを再確認しました。

Step 2

「和木町に興味を持ってくれる人とつながる場づくり」という視点が大切!

「宝」をもとに 講座案を企画

いよいよ企画会議開始! 壁一面に貼り出した「宝」を眺めながら、それぞれが思い思いの講座案を考えました。その後、全員で共有する時間を設け、参加者からの気づきや感想を参考にしながらさらなるブラッシュアップを図り、次回の会議に向けた準備を行いました。



Step 3

開催したい4つの 講座が誕生

練り直した講座案を改めて共有し、その中から実際に行う講座をセレクト。選んだ講座案ごとに、日程や講師、参加人数など、一つ一つ具体化していくにつれ、おぼろげだったイメージがはっきりとした形になっていきました。そしてついに、和木学園の開園に向けた記念すべき4つの講座が誕生しました。



中華まるかじり

春節(中国の正月)のごちそう
水餃子を作りましょう!



町ぐるみ「和木学園」お試し講座
中華まるかじり 小ネタは地味だが役に立つ! わきのきわウオーク 農士の料理「もぎり」大賞! チャレンジ★

日時 平成 29 年 2 月 18 日 (土) 14:00 ~ 16:30

場所 保健相談センター 調理室

対象 小学生以上 (小学生は必ず保護者同伴で参加)

参加人数 21 名



先生：三間 淑恵さん
(中華食堂 和木)

春節は中国のお正月で、最も伝統的な祝日です。
多くの人は一週間の連休があり、春節が近づくと年



春節(旧正月)は
こんな風習



煌びやかな赤の飾りが、春節の中国を彩ります。



中華まるかじり
水餃子を作ろう

今回は中華食堂和木店主の三間さんに春節のお話を聞き、その時に食べる水餃子の作り方を教えていただきました。中国のお正月に当たる春節の前夜に家族みんなで新しい年の健康や幸福を願って作る食べ物です。日本の年越しそばのようなものです。

越し用品を買い、大晦日に家族みんな揃って夕食を食べます。

家々や街のいたる所が「赤」で飾り付けられます。「赤」は春節のメインカラーでおめでたい色とされており、縁起の良い言葉や邪気を祓う言葉を書いた対聯という飾りを門や玄関に貼ります。また、「福」の文字をドアや壁に逆さまに貼るのは幸運が来るようにという願いが込められています。

人々は互いに新年の挨拶を交わし、街には爆竹が鳴り響き、龍や獅子が舞い、縁日が開かれます。



さあ、水餃子に挑戦

まずは生地作りからで、最初に薄力粉と水を合わせこねていきます。水餃子で一番難しいのがこの皮作りとのこと。生地を手際よく丸めて麺棒で円形に伸ばしていく様は熟練の職人芸を見ようで、参加者の目は先生の手元に釘付け。家庭料理ということではレシピはなく、みなさん熱心にメモを取られていました。手順の説明を受けつつ、プロのコツもたくさん伝授していただきました。

餡は二種類用意され、一つは豚肉と白菜、もう一つはニラ、エビ、玉子です。餡に決まりはないので、各家庭で工夫してくださいとのことでした。

先生のデモンストレーションの後、グループに分

参加者の感想

- 水餃子を作っておいしかった。家でも作ってみようと思います。一つ一つ作って楽しかった。
- 本格餃子が習えてラッキーでした。
- 生の皮はよく伸びるので包みやすかった。楽しい講座でした。
- 親子一緒に作業ができて楽しかった。
- 餃子の皮は作ったことがなかったので良かったです。



最後はチームごとに水餃子を茹で、その場でいただきました。皮がプリプリでとても美味しい！

かれていよいよ水餃子作り！小学生とお母さん、ご夫婦、友達同士と参加者も様々です。皆さん協力し合って餃子を完成させました。たっぷりのお湯の中で茹でられ、白く輝く水餃子を口にしたみなさんの幸せそうな顔。ご家庭でも挑戦され、和木町に水餃子名人が誕生する日も間近でしょう。

(文／中華まるかじりチーム)

私が
仕掛人



■この講座を企画した理由

食えることが大好きな私は、食べ物の講座を学びたいと思いました。ちょうど講座の開催時期が旧正月と重なり、旧正月(春節)の食べ物といえば「水餃子」と思いつきました。講師の先生も和木には中華のプロの方がいらしたので、講座を開設することができました。

■講座を終えてみて

レシピのない家庭料理を学ぶため、手順等がうまく伝わらないところもありました。でも、幅広い年代の方が参加していただけたことと、「美味しかった」「楽しかった」と笑顔で帰っていたことがよかったです。



轟真由美さん(写真右)と中華まるかじりチームのみなさん

ファミリー向けイベント講座
小ネタは地味だが役に立つ♪
 すぐに使える新しいマジックなど



日時 平成 29 年 2 月 10 日 (金) 19 : 00 ~ 20 : 30

場所 和木町文化会館 講習室

対象 小学校 1 ~ 3 年生の子どもとその保護者
 (兄弟姉妹参加も可)

参加人数 26 名

ぐるみ「和木学園」
 小ネタは地味だが役に立つ♪
 魔法のさけうー工場を歩こう♪



先生：重岡 良典さん
 (和木町教育委員会教育長)



『輪ゴムの瞬間移動』を
 お子さんに披露！特訓
 の成果はいかが？

講師の定番ネタで会場も温まってきたころ、今度は大人と子どもを別々に…。お互い相手のビックリする顔を思い浮かべながら、手品の練習です。子ども達は『クリップの合体』、大人達は『輪ゴムの瞬間移動』と『通り抜けるコップ』。しばらく練習した後、お互いに見せっこ得意げな子ども達とは対象的に、恥ずかしそうに披露する大人達でした。サプライズ大成功!!



サプライズ大作戦!!

お馴染みのアノ曲にのって講師が登場。登場シーンから参加者を引き込みます♪
 まずは、「みかんの浮遊」ネタの種明かしから…。子ども達、講師が言う前に種明かしをしてはいけませんよ…。(苦笑)。



講師登場!

みんな 「親離れ・子離れ」 できたかな？

続いて、「人間知恵の輪（親離れ・子離れ）」に親子でチャレンジ。

親子がつながってしまった輪から脱出を試みま
す。ああでもない、こうで
もないと楽しく苦心。「お母
さん、僕わかった！」意気
揚々と脱出方法を披露する
けど…あれあれ？余計に絡
まっていませんか？（笑）



とっておき！ 「新しいマジック」 を披露！

楽しい講座もあつという間に終わりに近づき、最
後のとっておき「新しいマジック」を講師が披露す
ることに。

講師の表情も真剣そのもの。会場の緊張も高まり、
かたずを飲んで見守るみなさん。そして…講師が
ボックスから取り出したモノは！

…最新すぎて、子ども達についてこれなかった
かな？（笑）

参加者の感想

- 親子でコミュニケーションをとることが出来た。『誰かに伝えたいな』と思った。
- クリップがつながるマジックが面白かった。
- 巧みな話術で最後まで楽しめた。
- 身近なもので出来るところ、なあんだと、笑えるところがよかった。

みなさん、ほっこり 温まりました

外は雪がちらつくとても寒い夜でしたが、会場内
はみんなの笑顔と笑い声につつまれ、楽しく過ごす
ことができました。

講師の鮮やかな技術と巧みな話術、そして親子の
ふれあいを大切にしたい講座に一同大満足した講座で
した。
（文／小ネタチーム）



最後に、とっておきの「新しいマジック」を講師が披露しました。

私が
仕掛人



■この講座を企画した理由

春といえば、出会いと別れの季節。
そこにパーティーはつきものですよ
ね！その反面、パーティーで「一発芸」
というワードに、苦しんだ経験をした
人も少なくないのでは…。そこで「誰
かに楽しませてもらうだけではなく、
自分からも楽しませる側を体験しても
らいたい。」そんな思いでこの講座を企
画しました。

■講座を終えてみて

和木学園の合言葉は、『みんなが生徒
みんなが先生』。講座の中で、このこと
を体感して頂けたと思います。教えて
もらったり、教えたり、それが楽しい
時間であればいいことナシですよ！
と、言いつつ…。

今回一番楽し
んだのは、間
違いなく企
画・準備した
私達でしょう
ね（笑）



中島芽生子さん（写真上段中央）
と小ネタチームのみなさん

わきのきわウォーク “工場を歩こう”



日時 平成 29 年 2 月 14 日 (火) 13:00 ~ 16:00

場所 保健相談センター前 (集合場所)

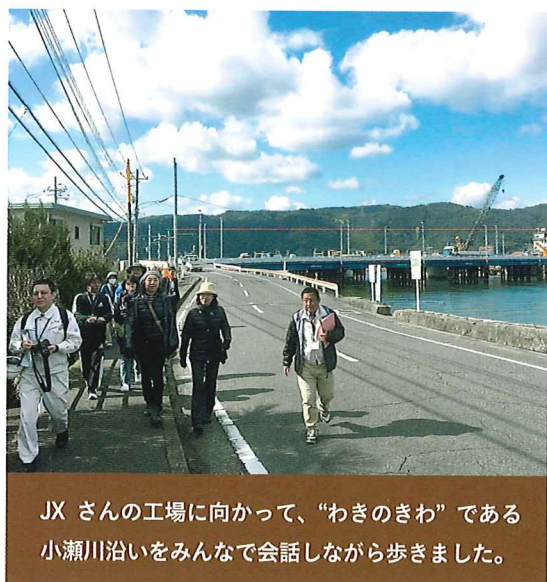
対象 18 歳以上で、和木町内に居住もしくは勤務されている方で、3 時間程度のウォーキングが可能な方。

参加人数 6 名

その他 コース：保健相談センター前～ JX エネルギー所内～保健相談センター



先生：賀屋 尚子さん
(JX エネルギー株式会社)



JX さんの工場に向かって、“わきのきわ”である小瀬川沿いをみんなで会話しながら歩きました。

みなさんは和木町がどんな形をしているかご存知ですか？
この企画は、和木町に暮らしているながらも、普段は意識することのない和木町の境界線「きわ(際)」を歩いて確認していくものです。
今回は、私たちの身近にありながら、普段は入ることができない工場の中にある「きわ」を中心にいつもと違った視点で和木町を歩いてみます。コースは和木町保健相談センターをスタートして小瀬川沿いを下って行き、JX エネルギー(株)麻里布製油所で説明を聞いた後、工場内を海沿いまで歩き、その後、和木 4 丁目・5 丁目と岩国市との「きわ」を確認していくもので



“わきのきわウォーク
工場を歩こう”

約3時間の長丁場で、かなりの距離を歩くため、ある程度の体力を必要とする内容となっています。



いざ

「わきのきわ」歩きへ

少し天候が危ぶまれる中、保健相談センターをスタート。川沿いにある史跡などについての説明をしながら順調に歩き、約30分ほどでJXエネルギー(株)麻里布製油所の正門に到着。今回の先生である、同社社員の賀屋さんから説明と案内をいただき、工場内の「きわ」を歩きました。途中、冷たい風と雨に見舞われながらも、巨大な石油タンクなどの工場施設を間近に見ながら、賀屋さんを質問攻めにしつつ



わきのきわウォーク終盤は、岩国市との境界をみんなで確認！

歩きました。

工場地(和木6丁目)と住宅地(同5丁目)の「きわ」も確認しながら、岩国市との「きわ」へ。和木4丁目・5丁目と岩国市との「きわ」はあまり目立たない・わかりにくい場所が多くあり、参加者のみなさんは「えっ、ここが!」と驚いた様子でした。



驚きながらも

「わきあいあい」と

「知らなかった」「初めて見た」といった驚きの声が続いた。歩きながら、参加者・企画者が和木町に関する様々な話をしながら、とても楽しく歩くことができました。かなりの距離を歩きましたが、みなさん怪我もなく、程よい疲労感とともに無事終了しました。

(文)わきのきわチーム

参加者の感想

- 今まで通ったことのない、これからも通ることがないような道(わきのきわ)を歩けたのが良かった。和木の範囲を知った。
- 普段入る事の出来ない工場の中を歩くことが出来たのはとても良かったです。話しながらのんびり楽しく歩くことができました。
- 和木町に僅かながら知らない場所を歩いたり工場内に入れたり、いろいろな発見があり、楽しかったです。今回はとても良かったと思います。また、新しい企画が楽しみです。

私が
仕掛人



■この講座を企画した理由

和木町内の「きわ」を自分の足で歩き、新たな発見やいつもとは違う視点での景色などを楽しんでもらいたい、健康増進を図るとともに、和木町をさらに好きになっていただきたいという思いを込めました。

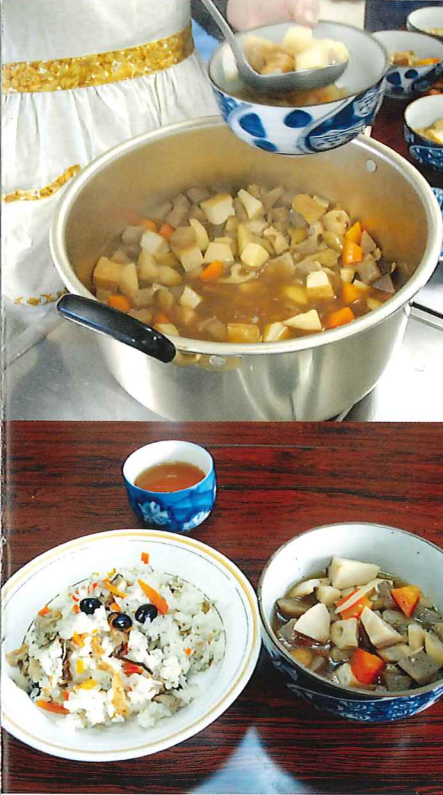
■講座を終えてみて

普段は行かない場所や何気なく通り過ぎていた場所を見ることができ、一味違う和木町を感じることができ、参加者のみならず、企画した側にとっても大変貴重な体験となりました。可能なら「わきのきわ」のシリーズ化も考えてみたいですね。



松井敏浩さん(写真右から2人目)とわきのきわチームのみなさん

郷土料理 おおひら 「もぶり」「大平」チャレンジ★



日時 平成 29 年 2 月 27 日 (月) 10:00 ~ 12:00

場所 保健相談センター 調理室

対象 だれでも

参加人数 12 名



先生：
和木町おふくろさん有志



参加者のみなさんの手際のよさは圧巻！メニューを確認しながら素早く調理が進められます。

今回は、和木町おふくろさん有志のみなさんに、岩国市、和木町、大竹市に伝わる郷土料理について、お話を聞きながら、実際に「もぶり」「大平」を調理する体験型の講座を実施しました。「もぶり」「大平」は手軽で簡単に作られることから、冠婚葬祭、棟上げ等、多くの人が集まり忙しいときによく作られる郷土料理だそうです。

「もぶり」という方言をご存知ですか？岩国、和木、大竹地方に伝わる方言で、「混ぜ合わせる」と



郷土料理「もぶり」
「大平」チャレンジ☆

いう意味だそうです。まさに、郷土料理「もぶり」は混ぜ合わせる料理。作り方は、まず具を煮るところから始まります。しいたけ、にんじん、ごぼう、れんこん、油揚げ等、身近な野菜を小さなせん切りにしてだし汁、しょうゆ、みりんで煮ます。炊き上がったごはんはこの具を「もぶり」ます。味付けは酢を使わずに塩で仕上げます。

「大平」は、さといも、鶏肉、にんじん、しいたけ、れんこん、ごぼう、こんにゃく、生揚げ等をだし汁で煮て、しょうゆ、みりん、味をつけます。



「もぶり」「大平」の いろんな話が 聞けました！

材料は大量のごぼう、れんこん、さといも、にんじん！見るからにたくさんの野菜をつかってヘルシーです。みなさん手際がいいので、大量の材料もあつというまにせん切りや乱切りに変身。あとは煮て、味をつけるだけ。楽しみ♪

煮ている間にいろいろなお話が。棟上げのときは、もぶりを丸いおにぎりにして、近所に振る舞う光景があったとか。おにぎりの大きさが、そのお宅の財力を表しているとか！また、棟上げのときのもぶりは、にんじんを入れないんですって。理由は、「火事になってはいけない」からだそうです。なるほど！



いよいよ、 「もぶる」♪

材料が煮えました。いよいよ「もぶり」ますよ！炊き上がったご飯を桶に入れて、水気を切った具を混ぜていきます。ほんと具たくさんで感動！今回は、黒豆も混ぜました。仕上げるに、塩で味をととのえて完成！「大平」も、いい感じに出来ました。

(文/もぶり大平チーム)



和木学園講座の総合監修をいただいている、ひろしまジン大学学長平尾先生もうちわで参加！

参加者の感想

- 郷土料理を学べて大変良かったです。みんなで和気あいあいと楽しくでき、満足しました。企画が良かったです。
- 先生方にいろいろ教えていただきありがとうございます。味付け、とてもおいしかったです。お世話になりました。
- 知らない方ともお話しでき、良かったです。
- 家でも作りやすそうなので、作ってみようと思った。

私が
仕掛人



■この講座を企画した理由

生まれも育ちも和木町ではない私たちの企画です。郷土料理「もぶり」「大平」は、地域に根差した料理という認識はあるけれど、まだまだ分からない：そんな興味や疑問からこの講座を企画しました。

■講座を終えてみて

想像以上に、調理や食事中に話が盛り上がり、楽しい雰囲気の中で講座でした。そして、とにかく美味しかった♪「もぶり」「大平」最高！郷土料理を知っていいですね。



もぶり大平チームのみなさん

和木学園への 参加のしかた

①和木学園の講座に参加する

次回は2017年4月より随時開催します。

②講座を企画する

講座を企画するワークショップは、次回2017年5月ごろを予定しています。ワークショップにより誕生した講座は、2017年夏に開催予定です。

③講座の先生になる

お声がかかるのをお待ちください。立候補はいつでも受け付けます。

発行年月：2017年3月
発行：和木学園実行委員会
〒740-0061 山口県玖珂郡
和木町和木 2-1-1
TEL：0827-53-3123
FAX：0827-53-6776